

平成28年度 冬季休業前集会（H28. 12. 16. 14:00）

- 先ほどの賞状伝達、受賞者に改めて敬意を表したい。  
今回の基準：団体・個人共に「県大会以上・3位（優良賞）以上」  
（ハンドボール、サッカー、陸上、剣道、弓道、水泳、硬式テニスも、放送、合唱、生物、文芸、写真、科学の甲子園出場チームも凄い！）  
残念ながら、賞状に届かなかったチームも個人も、自分の力を最大限に発揮できるようにさらに精進を重ねてください。
- 今年平成28（2016）年は、年度始めから「自分自身をしっかりと見つめ直す時間をとること」を繰り返し話してきた。そのためにも、「読書三昧、濫読」→「桑野文庫No.54」が必要。
- 今年はまた、6月法施行18歳選挙権が現実となったエポックメイキングな年でもあり、オリンピックイヤーでもあった。  
ちょうど1週間前の12月9日は、夏目漱石没後100周年。
- そして、安積にとっては、ロードレース大会が、41回目にして大きなコース変更があった。昭和60年（1985）の11回大会から東山霊園を会場としてきたが、国・県・市の除染事業等、やむを得ず大槻・逢瀬の田圃コースに変更。先生方は勿論、生徒諸君と保護者の皆さん、桑野会・桜桑会の皆さんの協力を得て、大きな事故なく実施でき、胸を撫で下ろしたが、反省・改善すべき点はしっかり確認して次に繋がればよいと考える。
- また、海外の修学旅行は、今月7日に出発、11日に帰国したばかりだが、シンガポール、韓国に続いて3度目で初めての台湾だった。現地の高級中学校との交流など修学旅行の名に相応しい成果を上げたのではないか。
  - \* シンガポール… H19(2007)122期・土屋 裕主任 10/22～26
  - \* 韓 国… H22(2010)125期・吉田伸一主任 10/11～15
- 間もなくアメリカの大統領も変わる。現中学2年生からの「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の全貌も今年度末から次年度始めにかけて判明する。まさに、激動の時代を生きていく生徒諸君は、今まで以上に「柔軟な対応力」を身につける必要があるだろう。そのためにも、今その基礎・礎となる力を蓄える必要があると考える。
- 3年生は、1月14・15両日のセンター試験まで1か月。  
言うことは、2年生・1年生も残り1年1か月、2年1か月。  
130期生のセンター迄の頑張り、その後の2次直前迄の最後の粘り・伸びに期待したい。と言うより、私の生徒としての3年間と教師としての11年間の経験、そして校長経験から安積の生徒のラストスパートの凄さを知っているので、君たちは自分を信じて、安積という不思議な醗酵現象を起こす坩堝の中で、刺激を与え、刺激を受けた仲間と共に、最後の1秒まで励んでほしい。4月には目標としていた大学のキャンパスで、全国から集った新たな仲間と談笑していることを確信している。

○ 1・2年生は、秋から1・2・3月にかけて、英単語・古文単語の語彙増強、徹底した地道なドリルによる数学の苦手分野の克服など、この時期にどれだけ問題演習をしてどれだけ力を蓄えるかが、センター試験、2次試験の成否の鍵となるし、ひいては、先程も述べたように、これからの人生の中で大切になる「柔軟な対応力」と「生涯にわたって学び続ける力」の土台を築く時期でもある。部活動も同じだということと言うまでもない。

○ 最後に、力を付けつつある君たちに花伝書の言葉を紹介。

…<sup>しんちゅう</sup>心 <sup>ぐわんりき</sup>中 <sup>いちご</sup>には 願 力を起して、一期のさかひここなりと、生涯にかけて、能を捨てぬよりほかは、稽古あるべからず。ここにて捨つれば、そのまま能はとまるべし。

(世阿弥「風姿花伝」第一 年来稽古条々 十七八より) 1333～1384南北朝時代

…心の中には<sup>ねんりき</sup>念 力を起こして、「俺の一生の分れ目はここだ」と、一生涯にかけて能を捨てない決心を固める以外に、稽古の方法はない。ここでやめてしまえば、そのまま能は止まってしまう。(川瀬一馬訳)

念力…精神を込めた力。一念を込めた力。「思う念力岩をも通す」

1988～1989

○ 安積の吉田 彌校長先生 (S63～H元) が、いつも口にした言葉

「念ずれば花ひらく」(坂村真民作)

念ずれば  
花ひらく  
苦しいとき  
母がいつも口にしていた  
このことばを  
わたしもいつのころからか  
となえるようになった  
そうして／そのたび  
わたしの花が  
ふしぎと  
ひとつ／ひとつ  
ひらいていった

(102 河口 103 富樫・石渕・近藤  
104 105 染谷)

坂村真民 (さかむら・しんみん)  
1909 (明治42) 熊本生まれ  
25歳で朝鮮に渡り教職に  
戦後は四国へ  
最初短歌、41歳で詩に転ずる  
詩集「二度とない人生だから」  
「念ずれば花ひらく」

何事も一所懸命念ずるように  
努力すれば、おのずから道は開ける